

直方市立図書館改修工事

コンセプトシート

(令和7年度 直方市教育委員会)



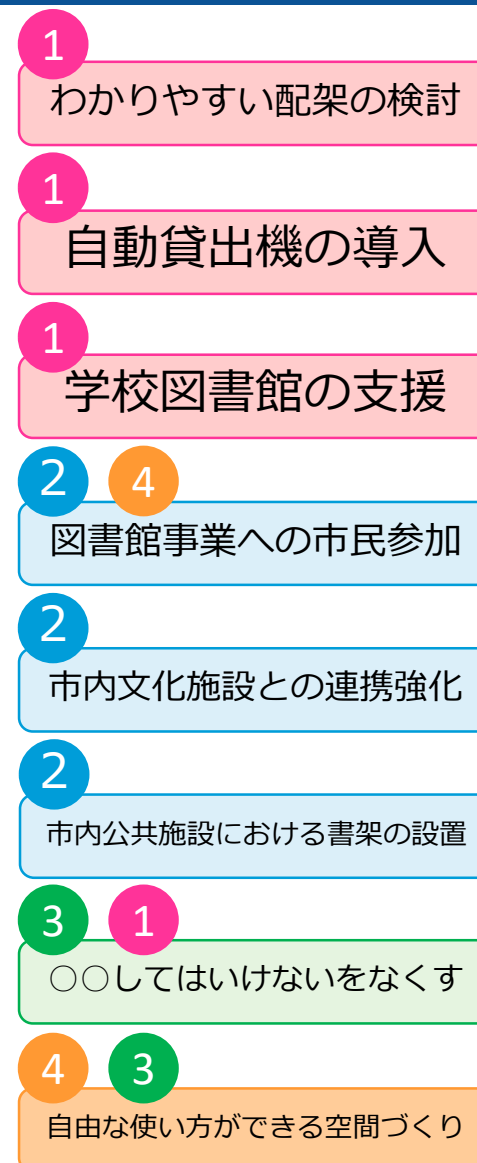
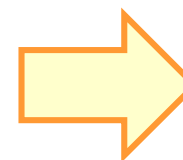
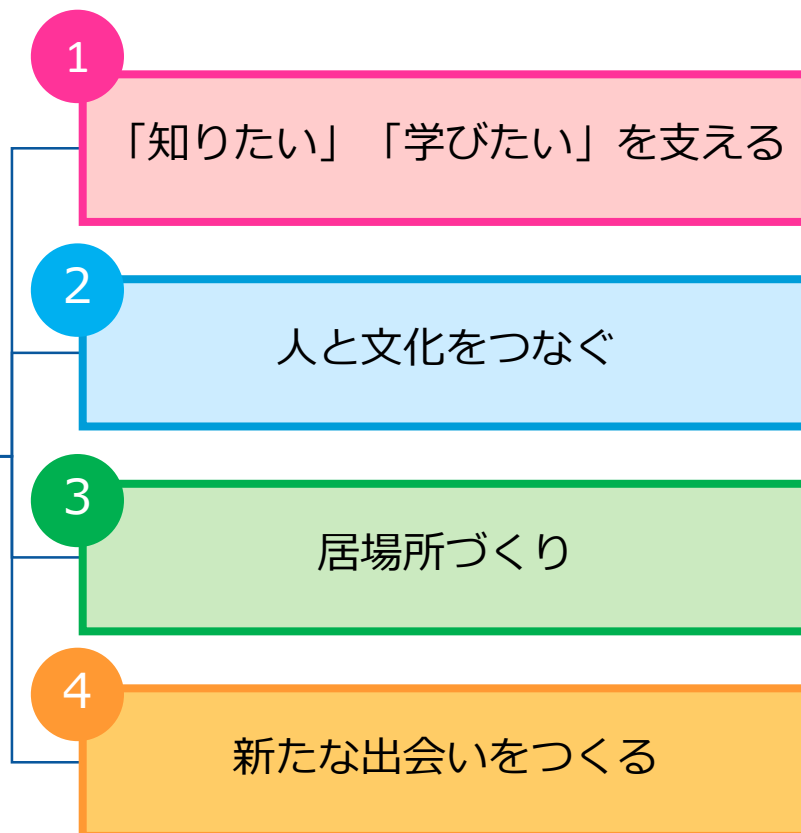
コンセプト

『 人と学び、本と学び、
“居心地の良さ”を感じられる図書館 』

基本方針

1. 「知りたい」「学びたい」を支える
2. 人と文化をつなぐ
3. 居場所づくり
4. 新たな出会いを作る

人と学び
本と学び
居場所を感じられる図書館





わかりやすい配架の検討

現在の配架方法（**日本十進分類法**）を採用しながら、より本を探しやすく、利用しやすい図書館を作っていくために、**各エリアごとのサイン表示**、子どもたちにもわかりやすいように**分類の言い換え**を検討します。



自動貸出機の導入の検討

図書を借りる際のプライバシーを配慮して、**誰もが自分の借りたい本を迷わず借りることができるように**自動貸出機の導入を検討します。自動貸出機の導入により、貸出図書数の増加、図書館職員の負担の軽減についても期待します。



学校図書館の支援

市内小学校における学校図書館において、市立図書館の**司書職員が赴き**、支援を行います。工事中**1年間実地で整備**、その後は**DXを活用**した支援・助言により小学生にとって一番身近な図書館をより充実した環境へ整備します。

① 新たな図書館サービス②



図書館事業への市民参加

より親しみ深く、利用者とともに成長できる図書館となるように利用者が参加できるような企画を行います。

例) 利用者がおすすめする本を配架する企画棚、図書館の名前の公募



市内文化施設との連携強化

南側駐車場のSL広場の活用などから、他文化施設との連携事業を強化し、直方市における文化振興の拠点が図書館となるような仕組み作りに努めます。また、SLや筑豊文庫など地域に歴史に関するコーナーを設ける。



市内公共施設における書架の設置

市内の各公共施設において、その施設に関連した本などを配架する書架を設置し、市内のあらゆる場所で本にふれることができる環境を整備し、市内の読書活動の推進に努めます。



〇〇してはいけないをなくす

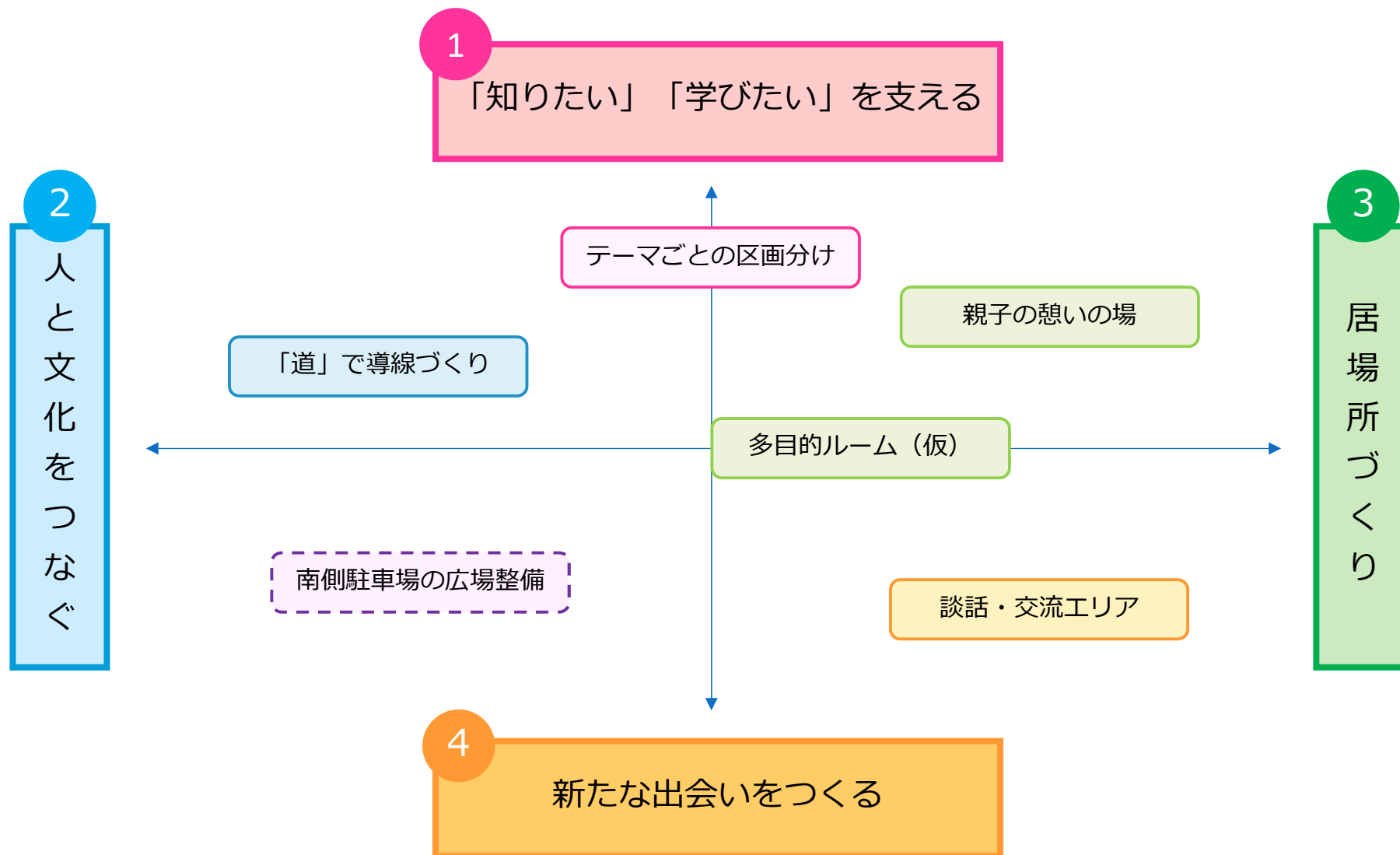
図書館の利用において、話してはいけない・飲食してはいけないなどといった**禁止事項**を**一定の基準を持って緩和**し、居心地のいい空間づくりに努めます。また、従来通り静かに読書や学習したい人のために**サイレントルーム**を設けます。



自由な使い方ができる空間づくり

現在筑豊文庫として活用している居室を**自由**な使い方ができる**多目的ルーム（仮）**として整備します。あえて**用途を限定しない**ことで、利用者それぞれが思い通りの使い方で利用し、文化の創造や中高生の活躍の場となっていくことを期待します。また、土日祝等様々なイベントが催され、図書館内での**活気や交流**が生まれていくような活用法を検討します。

⑩ コンセプトにつなぐ内装リニューアル



㊦ 内装リニューアル①



テーマごとの区画分け

テーマやジャンルごとに明確に区画分けすることで、利用者が求めている本を容易に探すことができるような環境づくりに努めます。
区画分けについては、テーマ・ジャンルごとに色や什器を使い分ける等視覚的に分かりやすい意匠を検討します。



「道」で視覚的な導線づくり

正面入口から南側出入り口にかけて、「道」を設けることで利用者を誘導し、左右に配置した書架を探しやすく整理します。また、書架の側面に中央公民館・郷土資料室の展示物や直方市美術館の展示物の一部を展示することで、各館の宣伝効果も期待できると考える。



参考：熊本県不知火図書館

親子の憩いの場

小さな子どもが靴を脱いで遊びながら絵本を読むことができ、**親子の憩いの場**となるようなスペースを設けます。現在のお話コーナー付近に絵本や児童書を配架しているが、その区画を整理し、「かぞく（仮）」のテーマで絵本や児童書、現在家庭コーナーとして配架されている本をまとめます。



参考：那珂川市立図書館

多目的ルーム（仮）

現在筑豊文庫となっているスペースを**多目的ルーム（仮）**として改修します。あえて用途を限定しないスペースとすることで、**自由な使い方ができる**ようにし、学習や会議、創作・研究活動、各種イベントの実施等から図書館における活気や交流づくりに貢献できるよう環境整備を行います。



参考：牧之原市立図書館

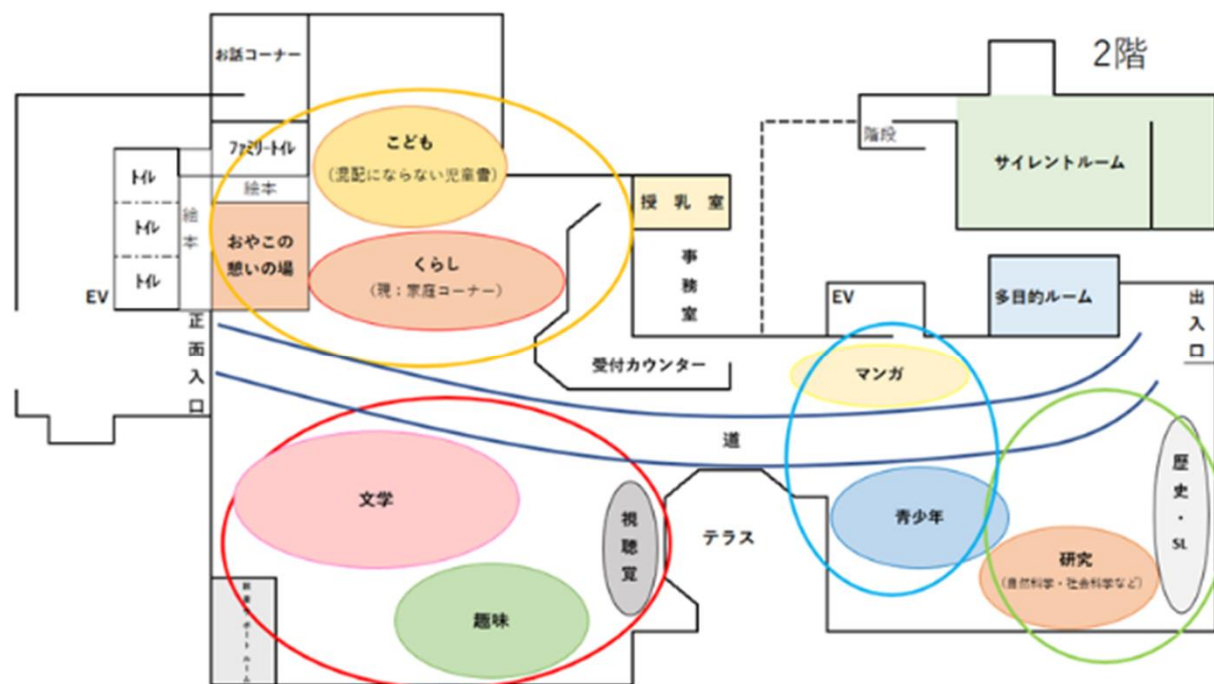
参考：ヘルシンキ図書館

談話・交流エリア

小ホール前から図書館ロビーにかけて、現在複数人掛けの机・椅子を配置し、子どもの居場所づくりとしているが、**談話・交流エリア**として整備し、より市民の**憩いの場**となるような空間づくりを目指します。

『利用のしやすさ』 『居心地の良さ』 『交流促進』

をキーワードに内装のリニューアルを実施
予定がない日にふと行きたくなる図書館へ



新

- ・居室の用途変更
 - ・床装飾の変更
 - ・書架配置の変更
- など



旧



居室の用途変更

方針：現在の利用状況を考慮し、求められている機能の充実を目指します。





書架の検討

方針：既存の配架図書数を維持しつつ、配置・書架の種類によって書架数を減らし、ゆとりのある空間づくりを目指す。



参考：熊本県 不知火図書館

壁面を活用し、天井に届くまでの背の高い書架を採用しており、開架図書数を高く保ちつつ、閲覧スペースを広く確保できている。



参考：熊本県 荒尾市立図書館

渦潮をイメージした、弧の形になっている書架を採用しており、魅せる書架になっているほか、区画分けの分かりやすさも演出している。



机・椅子の検討

方針：書架の見直しによってゆとりのできた空間を有効活用し、**本を読むだけではなく、勉強や仕事など様々な用途で利用できる**机や椅子の配置を目指す。

参考：福智町立図書館



四人掛けの机を多く配置し、間仕切りのある机では、**一人でも利用がしやすい**ような工夫がされている。

参考：宮若市立図書館



6人掛けの机を壁沿いに並べ、個人でもグループでも利用しやすい印象。電源が内蔵されており、PCでの作業など多様な使い方ができる。

参考：田川市立図書館



1人掛けの机を多数配置し、一人で集中して読書や学習ができるような環境づくりがされている。



石炭記念館及び筑豊文庫の資料の配架

方針：歴史コーナー（仮）として、石炭記念館や筑豊文庫にある貴重な資料の配架を行う。



SL広場と連動

SL広場より近く、窓からもSLが見える書架に配置する。

配架場所

書架上段2段ほどを閲覧可能な資料にし、その他石炭記念館に関するパネルなどを展示しコーナーを演出する。

保管場所

閲覧に注意が必要な貴重な資料を湿度・温度に配慮した書庫で保管する。

参考：板橋区立中央図書館